

学 位 論 文 の 要 旨

三 重 大 学

所 属	三重大学大学院医学系研究科 甲 生命医科学専攻 臨床医学系講座 乳腺外科学分野	氏 名	調子(山門) 玲菜
主論文の題名 Physicians' perception about the impact of breast reconstruction on patient prognosis: a survey in Japan			
主論文の要旨 【背景】 日本では毎年 9 万人以上の女性が乳癌と診断され、およそ半数が乳房全切除術を受ける。我が国での 2018 年に乳房全摘を受けた患者の乳房再建率は 18%だが、近隣国の韓国では 53%と大きな差があり、我が国の乳房再建率はいまだ十分とはいえない。患者が乳房再建手術を受けるかは医師の再建手術に対する考えが強く影響する。乳房再建の普及を妨げる要因として、乳房再建は乳癌の局所再発の発見を遅らせる、あるいは術後化学療法や放射線療法を遅らせるため、乳房再建が乳癌の予後に悪影響を及ぼすという医師の認識が以前より指摘されている。 【目的】 乳房再建が患者の予後に与える影響について医師の認識を明らかにする。 【対象】 乳癌学会に所属する医師 【方法】 乳癌学会の班研究の一環として学会に所属する医師へアンケート調査を行った。乳房再建は局所・領域再発に影響があるかと考えるかを質問した。さらに乳房再建を行った患者が再発をきたした場合の再発部位別の 5 年生存率の予測も調査した。 【結果】 369 名から回答を得た（回答率 6%）。乳房再建が患者の予後に影響すると答えた医師は 27%であった。乳房再建は再発に影響を及ぼすと答えた医師は、乳房再建を受けた後に局所再発した患者の 5 年生存率をより悪いと予想していたため、乳房再建は予後に悪影響を及ぼすと考えていた。乳房再建が予後に悪影響を及ぼすと答えた医師は女性医師が有意に多く、年間の新規乳癌患者の診療数が少なかった。 【考察】 乳房再建が患者の予後に悪影響を及ぼすと懸念する医師は女性で多かった。先行研究では女性医師がより再建を薦めると報告されており対照的な結果となったが、日本の女性医師の割合が上昇しており、本研究は日本の現状をより正確に反映していると考ええる。また、年間の新規乳癌患者の診療数が少ない医師ほど乳房再建が患者の予後に影響すると感じていた。乳癌の新規患者を診る機会が多い医師ほど再建を紹介する傾向にあると報告されており、こちらは我々の結果と一致した。			

本研究から、乳房再建は予後に悪影響を及ぼすと考えていた医師が少なからず存在することが明らかになったため、乳房再建に関する医師への正しい知識の啓蒙が乳房再建の普及につながると考えられた。